

奈良県

世界遺産をもっと知るための

# 世界遺産ジャーナル



## 目次

### 《巻頭特集》法隆寺地域の仏教建造物

1. 「法隆寺地域の仏教建造物」の顕著な普遍的価値
2. 知られざる古代～近世、各時代の仏教建造物の宝庫

○もっと知りたい世界遺産 第3回

○「飛鳥・藤原」を世界遺産に! 第3回

奈良県

# 《特集》「法隆寺地域の仏教建造物」

奈良県生駒郡斑鳩町にある法隆寺と法起寺は、1993年に我が国で初めて世界遺産一覧表に記載されました。今回の「世界遺産ジャーナル」では、日本初の世界文化遺産「法隆寺地域の仏教建造物」の世界遺産としての価値と、普段あまり注目されることのない世界遺産の構成資産として登録されている建造物を紹介します。このジャーナルを片手に、いつもと違う視点で斑鳩を歩いてみませんか。

## 法隆寺とは？

奈良盆地の中西部、斑鳩の地に聖徳太子が発願し、607年頃に完成したと伝わる仏教寺院です。広大な境内に、塔や金堂が建ち並ぶ西院伽藍、聖徳太子が暮らした斑鳩宮の跡に太子を供養するために建てられた東院伽藍などの建造物だけでなく、仏像や仏具、経典など、そして信仰に関わる様々な行事など、古代からあらゆる時代の文化遺産が数多く守り伝えられています。



ゆめどの  
**東院夢殿** <国宝>

奈良時代(8世紀)に建立された東院の本堂である八角円堂です。

斑鳩町



## アクセス

- 鉄道 JR法隆寺駅 徒歩約20分
- バス 法隆寺バスセンター 徒歩約5分
- 車 西名阪高速道路「法隆寺IC」 約3km

# 「法隆寺地域の仏教建造物」の顕著な普遍的価値とは

まずは、世界遺産一覧表に記載された「法隆寺地域の仏教建造物」の顕著な普遍的価値について、少し長くて難しい文章ですが、要約して紹介します。

「顕著な普遍的価値」については本号6ページ参照

## 顕著な普遍的価値の要約 (出典:「ユネスコ世界遺産一覧表」顕著な普遍的価値の要約を一部加筆修正しています。)

「法隆寺地域の仏教建造物」は奈良県に所在します。この世界遺産は法隆寺と法起寺の2つの寺院における**48棟の木造建造物**から成ります。

「法隆寺地域の仏教建造物」は、日本に仏教が伝来した直後に創建された日本最古の仏教建造物であり、その後の寺院建築に多大なる影響を与えました。

資産内にある11棟は、7世紀後半から8世紀にかけて建立されたもので、**現存する世界最古級の木造建築**です。創建された法隆寺はいったん670年に焼失してしまいましたが、その遺構は現在の法隆寺境内の地下に残っています。再建は、焼失のほぼ直後から始まり、8世紀初頭まで続きました。

これらの**木造建築の傑作**は、中国の仏教建築及び伽藍配置が日本文化に取り入れられたことを示しており、芸術史上において重要であるのみならず、建築時期が朝鮮半島を経由して仏教が中国から日本に伝来した時期と合うことから、宗教史上においても重要です。法隆寺は創建時から天皇家の保護を受け、さらに、12世紀頃より盛んになった**聖徳太子を尊崇する信仰**により、多くの信者を引きつけました。その結果、法隆寺は常に完璧な形で維持保存されてきたのです。

### ポイント!

「聖徳太子」のように、人名が顕著な普遍的価値のなかで語られることは、極めてまれな例です。法隆寺が世界遺産に登録される7年前の1986年までの一万円札は「聖徳太子」が描かれていました。1980年代のジャパンマネーの影響もあり、聖徳太子は海外に最もよく知られた日本人の一人だったのかもしれませんが、今年には聖徳太子没後1400年、法隆寺をはじめ、奈良県内各所で聖徳太子を偲んだ様々な催しがおこなわれています。ぜひ、チェックしてみてください!



また、世界遺産として登録するための条件である「評価基準」は次のものが適用されました。

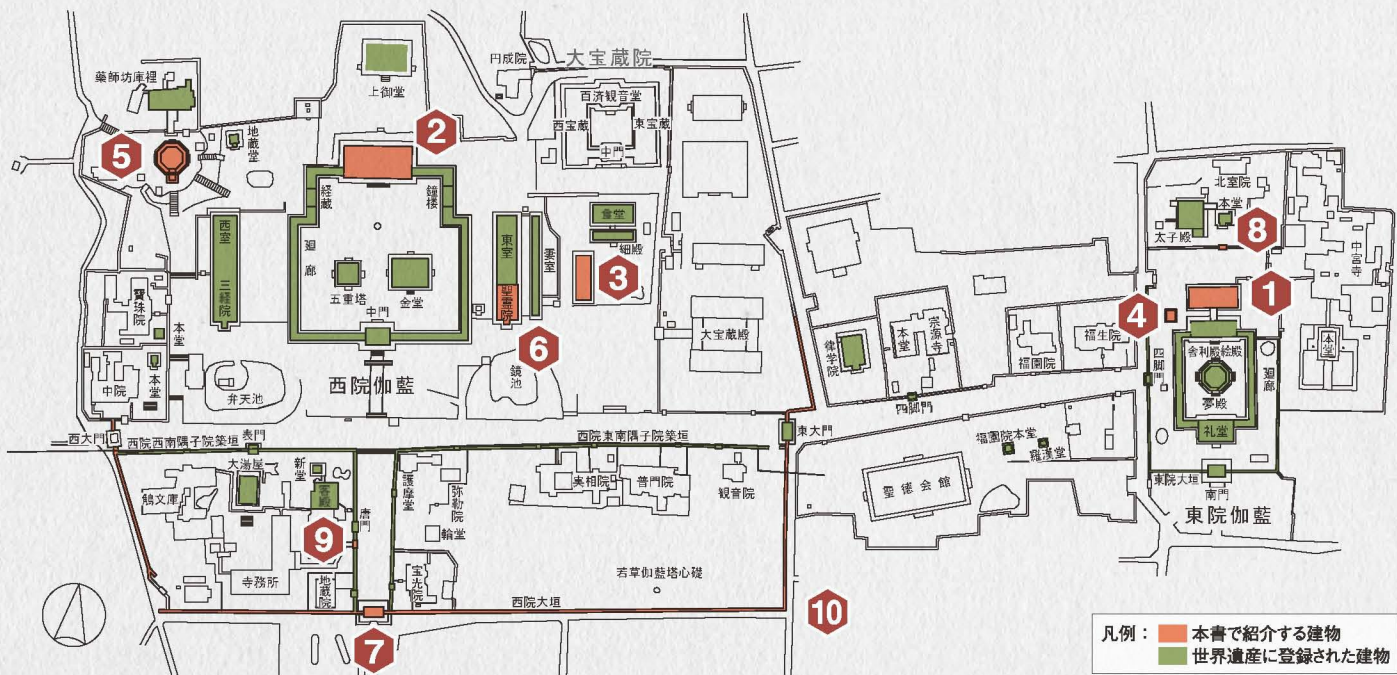
- 評価基準 (i) 「法隆寺地域の仏教建造物」は、全体的な意匠と細部装飾の双方の点において、木造建築の傑作である。
- 評価基準 (ii) これらは、日本に仏教が伝来した直後にまでさかのぼる当国最初期の仏教建造物であり、後代の宗教建築に重大な影響を与えた。
- 評価基準 (iv) 法隆寺の建造物は、中国の仏教建築及び伽藍配置が日本文化に取り入れられ、後代に日本特有の様式を発展させたことを示している。
- 評価基準 (vi) 日本に仏教が伝来し、聖徳太子がこれを広めたことは、この文化圏に広く仏教が流布する上での重要な段階であったことを示している。

評価基準については、本誌第2号で紹介しています。併せてご覧ください。



法起寺三重塔 (飛鳥時代・国宝)

# 知られざる古代～近世、各時代の仏教建造物の宝庫



法隆寺を訪れる人々の多くが、現存世界最古の木造建造物である西院伽藍や、奈良時代に創建された東院伽藍の夢殿には注目しているでしょう。しかし法隆寺には、飛鳥時代から奈良時代の古代建築だけではない、さまざまな時代の建造物が数多くあり、そのうち48棟もの建造物が世界遺産の構成資産になっていることは、ほとんど知られていません。そこで、本号では、普段注目されることの少ない、世界遺産の構成資産となっている建造物について見所を紹介します。



## 1 東院伝法堂 <国宝>

東院の講堂にあたります。奈良時代(8世紀中頃)に貴族の邸宅を移築し、仏堂に改築した建物です。そのため、奈良時代の仏堂には珍しく内部は床張りになっています。奈良時代の貴族住宅を知ることができる唯一の例として大変貴重なものです。

### ここが見どころ!

建物の側面の上部には、「二重虹梁墓股」の典型といわれる木組みが意匠的に表され、屋根を支える構造がとてよく分かります。



## 2 西院大講堂 <国宝>

以前の建物が925年に焼失したため、990年に再建されました。元々の正面柱間数は8間で、西院の中門と同様に珍しい偶数だったのですが、のちに西側を拡張して9間とされました。

### ここが見どころ!

柱上の組物は「平三斗」という簡素な形式で、背の高い「大斗」や「卷斗」の形に平安時代の特徴がよく表れています。

